

徳大病院が遠隔病理診断

徳島大学病院(徳島市)は、吉野川医療センター(吉野川市)、阿南医療センター(阿南市)と情報回線「遠隔病理診断ネットワーク」で結び、画像データによる遠隔診断に取り組んでいる。病理医が不足している両センターの診療機能の向上に力を発揮し、病気の早期発見・治療にもつながっている。

徳大病院は、吉野川医療センターと2018年10月、阿南医療センターとは19年4月からネットワークの運用を始め、年間の診断

県内2病院と「ネットワーク」

件数はそれぞれ2200吉野川医療センターでは難件、1200件に上る。両しい判断をする際に複数のセンターから送信される患者の細胞の画像データなど病理医1人にかかる負担がを徳大病院の病理医6人が大きかった。阿南医療センターには徳大病院の医師が解析し、診断結果を返して出向き、診断していた。

徳大病院によると、吉野川医療センターは常勤の病久典医師は「診断結果を迅速に報告できている。早期発見・治療につながり、患者にもメリットが大きい」と話す。

ネットワークを活用し、胃がんなどを判定するAI(人工知能)診断システムの実証実験にも参加。実験はシステムを開発した日本病理学会が主導し、徳大病院では両センターからの画像データ計60件について、医師の診断後にAIでも判定した。

病理学会の北川昌伸理事は「病理医が不足している徳島でAI診断の有効性が確認できれば、同様の環境にある他県にも広げられる」と述べた。

医師不足に対応 治療迅速化

(岸和弘)



ネットワークの概要を説明する上原医師—徳島市の徳島大学病院



病理診断 患者の体内から採取した病変の組織や細胞で標本をつくり、顕微鏡で観察してがんの有無などを判断する。病理診断を専門とする医師を病理医と呼ぶ。2018年度の県内の病理医は18人で、全国で9番目に少ない。徳島大学病院では年間9000件の病理診断を行っている。